

特別企画

九州経済 FIVE QUESTIONS

Q1 九州の経済構造は10年で変わった？

A。九州は輸入超過“国”から輸出超過“国”へ

九州の経済構造はどのように変化しているのでしょうか？ 九州を独立した“国”と見たて、解説していききたいと思います。

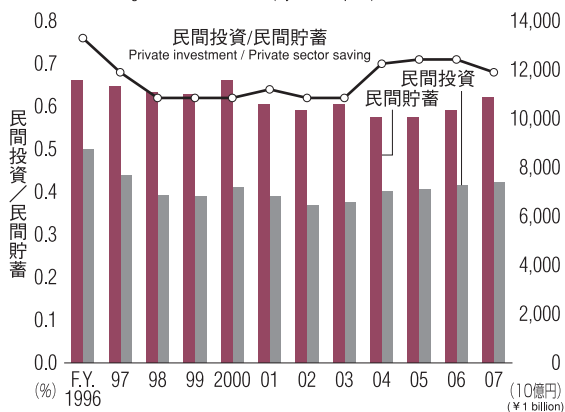
九州は生産に対して過小な民間需要を財政支出が補ってきたといわれています。つまり、貯蓄に対し過小な民間投資需要を補うため、九州内で徴収できる税金以上の財政支出がなされてきたということです。実際に民間投資は貯蓄に対し3割以上少なくなっています。額にして約3.5兆円の差です。

加えて、九州が輸（移）出より輸（移）入が多い地域だとすると、さらに税金に対して財政の支出が拡大することになります。実際、これまで九州はいわゆる“双子の赤字”状態にありましたが、その状況は一変しています。とくに大きな変化は、輸入国から輸出国へ転換したことであります。輸入超過は直近のピークである2002年度の2.1兆円から急速に縮小しはじめ、07年度、ついに9,500億円の輸出超過となりました。

つまり、九州は域内の需要不足を、交付金や補助金などの財政移転（税金と財政支出の差）で賄ってきました。これに加え、域外の需要でも賄う構造に変化したわけです。これは重要な変化です。もし、10年前のように貿易赤字が2.3兆円もある状態が続いていたとすると、“国”の自立には大変な痛みを伴います。なぜなら、財政均衡は税収が伸びない限り域内需要の減少をもたらし、大幅な縮小均衡を余儀なくされるからです。域外からもっと稼ぐようになれば、財政の改善を進めながら、経済を拡大させていくことが可能となり、本格的な“国”としての自立の道筋がより明るくみえてくることになるでしょう。

民間投資と民間貯蓄〈九州7県〉

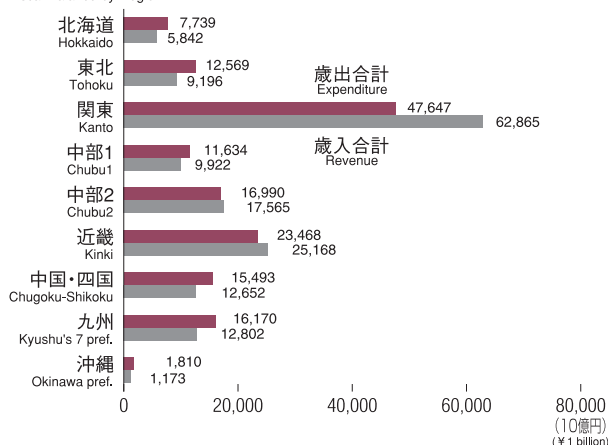
Private Sector Saving & Private Investment (Kyushu's 7 pref.)



九州各県「県民経済計算年報」

地域別の財政収支状況(F.Y.2007)

Fiscal Balance by Region

財務省「一般会計歳入歳出決算」、地方財務協会「地方財政統計年報」、「行政投資」
国税庁「国税庁統計年報書」